

第2学年 国語科学習指導案

1 題材名 佐藤和之「やさしい日本語」

2 教科研究主題との関連

国語科では「自ら読み、理解を深めるための言語活動の工夫」の主題のもと、「情報を目的や条件に応じて加工し、表現する力」の育成に重点を置いている。本題材では「やさしい日本語」の考え方や「情報を伝える側は、誰に対しての情報なのか、伝えねばならない情報は何かをより強く自覚していなければならない」という筆者の主張をもとに、相手や目的意識をもって情報を加工する必要性を理解させ、社会生活の中で他者に「やさしい日本語」で表現ができる力を育てていきたい。

3 本時の指導

- (1) 目標 教科書に示されている5つのルールを手がかりにして、「ゴミ集積所の表示」を修正し、情報の受け手にとっての「やさしい日本語」について自分の考えを書くことができる。
(書くこと)

(2) 展開 (本時 5/5)

時配 形態	学習活動と内容 (○表現する力を育成する取り組み)	支援及び指導上の留意点 ◎評価(規準・方法)
5分 一斉	1 前時までの学習を振り返り、本時の課題を確認する。	・ノートを見ながら「やさしい日本語」になおすためのルールを確認させる。
5つのルールを手がかりに「ゴミ集積所の表示」を「やさしい日本語」に作り直そう。		
25分 グループ	2 5つのルールを手がかりに「ゴミ集積所の表示」を「やさしい日本語」で表現するためにはどのように修正をすればよいかグループで考える。 ・問題点を探す。 ・5つのルールを手がかりに修正案を考える。 (5つのルール) 1. 重要度が高い情報に絞る。 2. 難解な語句は言い換える。 3. よく使われる重要な語句には解説を添える。 4. あいまいな表現は避ける。 5. 複雑な文や長い文は、文の構造を簡単にする。	・「ゴミ集積所の表示」のどこに問題があるのか、書き込めるようワークシートを配布する。 ・どのような人が困るのか、情報の受け手を具体的に設定して考えさせる。 ・情報量が多すぎて、情報の受け手に混乱をきたすのではないかとこのところに着目させる。 ・幅広い年齢層の方や日本語に不慣れな外国人にも正確に情報を伝えるために、どこをどのようになおすべきか考えさせる。 ・手がかりとして、始めは日常生活からよく出るゴミに絞って考えるように促す。 ・ルール1を用いて、情報の絞り方を全体で考える。 ・進度の速い生徒には、さらに種類毎に専用の集積所表示を作成できるよう、修正用紙を用意する。
10分 一斉	③ 修正した「ゴミ集積所の表示」を発表し評価しあう。 (修正例) ・雑貨品・小型廃家電類→もやせないごみ ・もやせるごみ・もやせないごみ集積所→ゴミ集積所	◎情報の受け手にとって、どのような表現が理解しやすいか考えて、「ゴミ集積所の表示」の修正のアイディアを考え、発表することができたか。 (書くこと：ワークシート、発表)
10分 個人	4 本時の自己評価と学習を通してわかったことや考えたことをワークシートにまとめる。	・各グループのどの表示がより、「やさしい日本語」に修正できていたか交えて評価させる。 ◎級友の発表を聞いて、「やさしい日本語」についてワークシートに自分の考えをまとめることができたか。 (書くこと：ワークシート)

